

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL

60

2020

人生100年時代の医療人育成

DOCTOR'S VOICE 01 国際規格の環境と、高い専門性を持つ技師が診療現場に合わせた検査

DOCTOR'S VOICE 02 看護師の視点と、互いを思いやる連携で医療現場を支えます

DOCTOR'S VOICE 03 多様な専門性を持つ医師たちが集まる脊椎のプロチーム

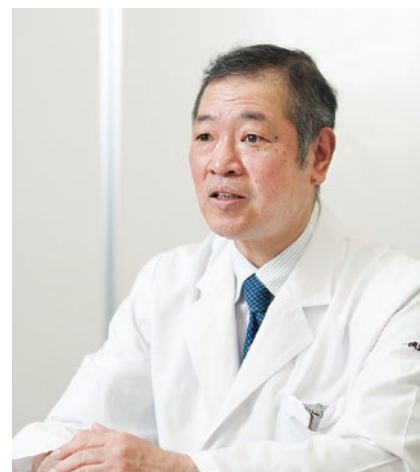
FROM VIP DOCTOR ジェネラルな医師の育成と新制度を生かした派遣を期待



国際規格の環境と、高い専門性を持つ技師が診療現場に合わせた検査

検査部 技師長 宮本仁志

現在、検査部は再雇用の1名を含めた47名の大所帯となっています。臨床検査は血液検査、生化学検査、一般検査、免疫血清検査、輸血検査、遺伝子検査、細菌検査、生理検査、病理検査など多岐にわたっており、いずれも高い専門性を持つ臨床検査技師が行っています。スタッフ全員が現状に満足することなく、更なる認定資格取得に積極的です。その意識を押し上げているのが、臨床検査室の国際規格であるISO15189の認定取得です。全国に先駆けて2010年3月に取得しました（2018年3月に2度目の更新）。認定の取得により検査部の一体感と推進力が生まれ、何よりも患者さんに安心感を与えています。さらに、8時から検査ができるようシフト勤務の調整を図り、9時からの診察時に検査結果がわかり診断ができるように診療に貢献しています。また、多くのスタッフが愛媛県臨床検査技師会の委員や学部部長・副部長を担当し、研修会の企画・運営の中心を担い愛媛県全体の情報共有とレベルアップに貢献しています。



PROFILE

みやもとひとし◎1982年愛媛県立臨床検査専門学校卒業、臨床検査技師資格取得。同年、愛媛大学医学部附属病院検査部。2010年診療支援部の臨床検査技術部門副部門長などを経て、2017年検査部臨床検査技師長と診療支援部長を兼任。2017年4月から現職。趣味は映画・音楽鑑賞とスポーツ観戦。座右の銘は「吾唯足知（われただたるをしる）」。

看護師の視点と、互いを思いやる連携で医療現場を支えます

材料部 看護師 熊 則子

中央診療部門の中にあるひとつが、わたしたち材料部です。材料部は診療部長や看護師、滅菌技師、技術補佐員など11人で構成され、4月からは今井師長を中心とした新体制で業務にあたっています。業務としては、院内全体の医療器材の洗浄・滅菌・物品管理の3つを行っています。近年各部門への直接納品が多くなる中、当院では中央一括管理を続けています。中央一括管理は、使う機会の少ない器具の期限切れによる廃棄数削減など、患者さんにとって常に新しく清潔な器材が使用されるメリットの多いシステムです。また、医療技術や医療機材の進化に伴い、常に勉強をしています。昨秋には「愛媛県滅菌業務研究会」が発足し、今年2月に第1回目の会を開催しました。

わたしたちが特に気をつけているのは各部門との、顔が見えるコミュニケーションです。器材がどのように使われるか、バックアップ数は足りているか、現場へ足を運び、皆さんの現状や困りごとなど生の声を聞きます。医療は日進月歩で変化しています。わたしたちも変化を先取りした勉強と準備をして、医療現場をサポートしていきます。



PROFILE

くまのりこ◎1981年慈恵看護専門学校卒業、同年4月から当院勤務。2003年看護師長職を経て、2017年から材料部となり現在に至る。趣味はフラメンコ。

多様な専門性を持つ医師たちが集まる脊椎のプロチーム

脊椎センター センター長 森野忠夫

脊椎とは首から腰までの背骨や、中を通る脊髄などを指します。日本で脊椎の病気を扱うのは脳外科・整形外科・神経内科などですが、欧米では脊椎専門の診療科が主流です。日本では20年ほど前から一本化の流れがあり、当院は2011年に脳外科と整形外科の先生が集まって脊椎センターを設立しました。全国でもかなり早い時期でした。脊椎に関する病気や症状には、老化に関連する変形疾患（背中が曲がり出っ張った背骨が神経を圧迫して痛む）などが含まれますので、高齢化社会に伴って症例数は増えています。当院は総合病院ですので、糖尿病や高血圧などの合併症がある患者さんでも他科の先生との連携によって対応できます。また、最新のナビゲーションシステムで、脊椎を三次元でとらえながら安全性の高い変形矯正手術を行うことができます。脊椎は病状だけでなく生活環境も一人ひとり違います。患者さんに正確な情報を伝え、ともに治療方法を考えるよう心掛けています。更に、県内の先生方との情報交換を積極的に行っており、四国エリアの脊椎症例発表会や、愛媛脊椎研究会では実際の症例を持ち寄って検討会を開いています。



PROFILE

もりのただお◎1994年愛媛大学医学部卒業、同年当院整形外科に入局。2002年に整形外科専門医、10年に脊椎外科指導医を取得。専門は脊椎脊髄外科で診断・治療・手術と幅広く対応。趣味は犬サチコと散歩、位置ゲーム。

FROM VIP DOCTOR

愛媛大学医学部附属病院に期待すること『VIP DOCTOR に聞く』 ジェネラルな医師の育成と新制度を生かした派遣を期待

西条中央病院 院長 高田泰治

附属病院には多くの診療科や高度医療機器が備わっており、県内最後の砦として多くの患者さんをサポートしていただいています。これからも患者さんを受け入れていただく他、若い医師の育成と地域への派遣を期待しています。医学教育の専門機関として、卒業生の中からできるだけ多くの初期研修医を確保し、広い視野を持つ全人的な医療のできる医師を育てていただきたいと思います。新専門医制度が始まり、医師不足の地域に派遣しやすい制度設計により、4月から専攻医2名が当院に派遣されることになりました。医師の平均年齢が高い当院は、若い先生がいらっしゃるだけで活性化します。医師たちも指導医という立場として、改めて医療の知識を学び直す機会にもなりますし病院の空気が一変します。今年度の私たちの目標は「チーム医療」。多職種が関わると医療効率が高まり、当院は県内一の在院日数の短さを誇っています。そうした現場を若い医師に感じてもらいたいと思います。



PROFILE

たかだやすはる◎1974年徳島大学医学部卒業、徳島大学医学部附属病院、徳島赤十字病院、愛媛大学医学部附属病院を経る。1987年西条中央病院の内科部長となり、2000年より現職。趣味はパソコン、ゴルフ

愛媛大学医学部附属病院 トピックス

お気軽にご相談ください

脳死下臓器提供に係る講演会 及びシミュレーションを実施



令和元年12月21日(土)、院内関係者の知識向上及び提供体制を確認するため、脳死下臓器提供に係る講演会及びシミュレーションを実施しました。55歳女性が脳死とされる状態となり、家族から臓器提供の意向が示されたという設定で、一連の対応手順の流れを確認、無呼吸テスト等のロールプレイを行いました。講師の指導の下、移植医療の現状を医師やコーディネーターなどの立場から意見交換し、関係者は互いに理解を深めました。

総務課総務チーム ☎089-960-5125

HiMEネット研修会を開催



令和2年1月18日(土)、昨年に導入した地域医療ネットワークシステム「HiMEネット」の活用と今後の可能性をテーマに研修会を実施しました。HiMEネットは愛媛県全域とその近隣の医療者を対象に、当院の電子カルテ内容・画像・検査が閲覧でき、かかりつけ医や関連病院とこれまで以上に綿密な連携を構築することを目指しています。また薬局や介護施設などの連携の可能性にも触れ、有意義な研修会でした。

総合診療サポートセンター ☎089-960-5322

エイズ診療ネットワーク会議を開催



令和2年2月18日(火)、エイズ診療ネットワーク会議を開催しました。本会議は最新の医療情報などを共有し、県内のエイズ診療体制の充実を図ることを目的に毎年開催しているものです。今回は、県内で毎年新規感染者が増加しているなど現状報告に加え、高知大学医学部附属病院の武内世生先生から、高知県の現況についてお話をいただき、県内でも参考となる医療環境づくりについて聞くことができました。

総務課企画広報チーム ☎089-960-5225

愛媛大学医学部及び医学部附属病院の HPをリニューアル



2つのHPを全面的にリニューアルしました。スマートフォン・タブレット対応はもちろん、附属病院HPでは患者さんや医療関係者問わず、幅広い年代の方にとって扱いやすいコンテンツを配置し、症状や疾患名からの受診科の検索など便利な機能を追加しました。今後とも内容の充実を図るとともに、最新情報を発信します。

附属病院 <https://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>
医学部 <https://www.m.ehime-u.ac.jp/>

総務課企画広報チーム ☎089-960-5225

ステークホルダー懇談会を実施



令和2年2月28日(金)、ステークホルダー懇談会を開催しました。「採用したい卒業生像及びシームレスな医師養成」をテーマとして、事前アンケートを元に課題や改善点などを発表し、新たに症候学を授業として取り入れ、途切れない実習プログラムなどの取組を紹介しました。その後、採用したい卒業生像、学生実習受け入れ時の課題や対応状況のほか数多くの意見が出され、有意義な懇談会となりました。

総務課総務チーム ☎089-960-5125

編集後記

2020年はOlympic yearとして華やかな1年を期待しておりましたが、残念ながら新型コロナウイルスの話題ばかりです。まずは、最前線で診療に従事されている皆様に敬意を表したいと思います。さて、本広報誌は記念すべき第60号を迎えました。今後も新任教授、院内各部署、連携病院を紹介し、トピックスも様々な話題を取り上げて参ります。本広報誌を通して愛大病院の見える化を図り、皆様方と益々連携しやすい土壌を作っていききたいと思います。なお、今年度から私が高田清式先生より総合臨床研修センター長とともに広報委員長も継承致しました。引き続きINVITATIONを何卒宜しくお願い申し上げます。

広報委員会委員長 熊木天児

◎表紙: 病院長 三浦裕正

看護部長 久保 幸

総合臨床研修センター長 熊木天児

新人研修医 看護師 診療支援部医療職員